



NEWS LETTER

No.24
2019

11月28日(水)

サービスデザインを学ぶダイバーシティ人材育成セミナー開催

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」では、サービスデザインプロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトの目的は、「健康・栄養・有機エレクトロニクスの3つを柱とした“女性にとって快適で豊かな未来の生活”の実現」をテーマに女性研究者が自らが主体となって進めたい!と思う魅力的な研究テーマを創出し、実践していくことにあります。

そのアプローチ方法が、生活者が感じる情緒的な体験価値を重視し、その生活者を中心とした価値分析から革新的なサービスやプロダクトを創出する新たな手法「サービスデザイン」です。3年間で2つのサービスアイデア(特許出願)を創りだし、高い評価を得ています。今年度は、サービスデザインの手法を大勢の方に知っていただき、活用してもらうことをめざしてセミナーを開催しました。

ダイバーシティ人材育成セミナー

日時:平成30年11月28日(水) 15:00~16:30

場所:小白川キャンパス人文社会科学部1号館301教室

参加者数:34名

講師:大日本印刷株式会社

情報イノベーション事業C&Iセンター

第1インテグレートッド・コミュニケーション本部

サービスデザインラボ 部長 山口博志氏

松田久仁子氏

このプロジェクトの成果であるダイバーシティ研究環境を創り出す研究手法(オープンイノベーション)と思考(サービスデザイン)を、人文科学系の教員・学生が学ぶことができるように、「ダイバーシティ時代に求められるサービスデザイン」というテーマを掲げ、大日本印刷株式会社のサービスデザイン・ラボ山口博志氏と松田久仁子氏を講師に迎え開催しました。ビジネスや公共分野で実績を生み、新しい研究手法として注目されているサービスデザインの考え方を本事業の共創ワークショップをはじめとしたさまざまな事例をあげ、楽しくわかりやすい講義を行っていただきました。

講義終了後に回収したアンケート(回収率73%)では、「大変有意義」「まあまあ有意義」の合計が約9割に達し、参加者の満足度が高いセミナーとなりました。また、「物事に対する見方、考え方等の今まで気が付かなかったアプローチ方法を知る事ができた」等、新しい気づきや普段の講義に活かしたいといった感想が多く寄せられました。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(連携型)
主催:山形大学・大日本印刷株式会社研究開発センター・山形県立米沢栄養大学

平成30年度 **申込不要!**

ダイバーシティ人材育成セミナー

2018年11月28日(水) 15:00~16:30
山形大学小白川キャンパス 人文社会科学部1号館 301教室
対象:連携機関に所属する研究者、大学院生、学生、職員(性別不問)

ダイバーシティ時代に求められるサービスデザイン

ビジネスや公共分野で実績を生み、新しい研究手法として注目されているサービスデザインの考え方を楽しくわかりやすく紹介します!

講師 大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部
C&Iセンター第1インテグレートッド・コミュニケーション本部
サービスデザイン・ラボ 部長 山口博志氏
松田久仁子氏

What's Service Design?

サービスデザインとは、サービス利用者(生活者)が感じる体験価値を重視して、個々のタッチポイントのデザインにとどまらず、事業としてサービス全体をデザインする行為です。
・・・つまり、それってどういうこと?気になった方は、**セミナー会場にお越し下さい!!(申込不要)**

問合せ 山形大学 男女共同参画推進室 准教授 井上榮子
Tel: 023-628-4937 Email: y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



講義する山口氏



講義する松田氏

女性研究者と話そう

11月10日(土)

日時：平成30年11月10日(土) 14:40～15:30 12名参加

場所：山形県立米沢栄養大学 D303

女性研究者の裾野の拡大を図ることを目的とし、女性大学生・大学院生等を対象とした女性研究者との交流会を「女性研究者研究成果発表会」開催後に実施しました。「女性研究者研究成果発表会」で発表を行った山口光枝先生(山形県立米沢栄養大学・准教授)、横井香代子先生(山形県立保健医療大学・講師)、黒谷玲子先生(山形大学大学院理工学研究科・准教授)を中心に小グループを3つ作り、学生たちが3人の先生と話せるよう時間を区切り各先生と交流を行いました。



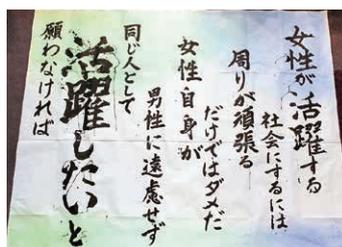
交流会の様子

自然科学系の学部・大学院に進学し、ふだん話しにくいことを身近なロールモデルである先生たちと話し合い共有することで学生たちは進学や将来のキャリアやプライベートでの不安を払拭し、仲間を作ることができました。

今年度4月に、「大学コンソーシアムやまがた」に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」が設立されました。そのお蔭で、このたびの「女性研究者研究成果発表会」では、連携機関以外に県立保健医療大学から横井先生に参加していただくことができました。また、同じく4月に米沢栄養大学大学院が開学し、山形大学女性大学院生ネットワーク(山大JOIN)もスタートしたことから、このたびの交流会はこれまで以上に交流の輪を拡げる機会となりました。

平成30年度山形市男女共同参画作品展「一行詩部門」一般・大学生の部 山形大学地域教育文化学部2年生の3名が入賞 祝

10月20日(土)



最優秀 黒澤 里彩さん
優秀 林 里穂さん
入賞 伊東 晴菜さん

左の写真は、黒澤さんの一行詩を、山形西高書道部の皆さんが揮毫して下さった作品です。



山形市長による表彰

DNP交換留学の感想

9月18日(火)～
20日(木)

平成30年9月18日～20日に、ダイバーシティ事業の一つとして、連携先の大日本印刷株式会社に学生を派遣する交換留学が開催されました。参加者は、女性大学院生ネットワーク(山大JOIN)、米沢栄養大学の学生、院生です。参加者から寄せられた感想の一部を紹介します。

山形大学大学院 理工学研究科 博士前期課程 1年 バイオ化学工学専攻 久原 利英子

私は人の利便性に携わるものづくりに興味があり、企業で商品開発に関わる仕事に携わりたいと考え、今回の交換留学を希望しました。研究者として働く女性のイメージを自分の中で持つため、次のことを意識したいと考えました。1つ目は研究開発に対するイメージを具体的にするために交流会で研究者の方と話をすること、2つ目は私生活と仕事のバランスについて、多くの人の意見を聞くことです。

1つ目の研究開発に対するイメージについて、幅広い分野の研究内容があり、各分野で実験装置が充実しているため、より専門性の高い研究ができることが分かりました。

2つ目の私生活と仕事のバランスについて、それをサポートするような制度がたくさんあり、働きやすい環境づくりがされていることが分かりました。育休の取りやすさや時短などはもちろんのこと、月で決められた時間を守れば労働時間を自分で調節できる「みなし就業制度」や、業務時間の20%は業務以外の研究などができる「20%ルール」など興味深い制度もあり、他の企業でのサポートも調べていこうと思います。

今回の交換留学を通して、様々な研究分野や仕事を経験でき、働きやすい制度が充実している会社に興味を持ちました。私は将来研究者になり、ある特定の分野の専門性を高めることを考えていましたが、どの研究分野にも興味を持つ自分に気が付きました。また、交流会や懇親会でそれぞれの人の経歴や部門・部署の移動の話を聞き、一つの分野や仕事に固執せず、色んな仕事を経験することで自分のスキルを磨くという考え方に気が付きました。さらに、これまで自分の興味のある分野を仕事にしたいと考えていましたが、私生活と仕事のバランスなどの働きやすさも重要視したいことが分かりました。



大日本印刷 市谷加賀町ビル

ネットワークを活用したダイバーシティの推進

今年度は、ダイバーシティ事業の学内・学外への波及の面で飛躍的な発展がありました。学内では、次世代育成のための女性大学院生ネットワークが活動を開始しましたが、次のようなネットワークがスタートしています。

「大学コンソーシアムやまがた」に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」設置

4月に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」が設立され、7月の男女共同参画セミナーは県内ネットワークのキックオフ・セミナーと位置付けて開催しました。その後、アカデミックイングリッシュセミナーや女性研究者発表会などの本事業のイベントを公開し、交流の輪を広げることができました。また、加盟機関を対象とする「男女共同参画推進状況調査」を実施し、シンポジウムで発表を行いました。



山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)との連携

山形大学COIシンポジウム「健康長寿で快適なスマート未来社会の実現を目指して」

7月25日(水)

日時：平成30年7月25日(水) 13:00～16:40 130名参加

場所：グランドホクヨウ

JSTセンターオブイノベーション(COI)プログラムは、事業の中間評価が行われる年にあたり、これまでの事業成果を地域に還元することを目指し、「健康長寿で快適なスマート未来社会の実現を目指して」と題しシンポジウムを行いました。ダイバーシティ事業とは平成29年度より事業連携をしており、女性研究者や若手研究者支援と参画を行っています。本シンポジウムでは、男女共同参画推進室・井上榮子准教授が「未来の豊かな生活創造への女性研究者の参画」とし関連発表を行いました。また、連携機関である米沢栄養大学金光秀子教授が「栄養成分値からみた『米沢らーめん』」について研究成果を報告しました。

今後も、COIとの連携を深め、3機関の幅広い女性研究者が、「有機ELを活用した豊かな未来の生活創造に参画」できるようにしていきます。



全国ダイバーシティネットワーク組織

さらに、11月にJSTの新事業である「全国ネットワーク中核機関(群)」がスタートし、「全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック会議」が設置されました。本学は、幹事大学として南東北のネットワークづくりに向けて新たな一歩を踏み出しました。

この事業は、全国で女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取組む機関をつなぎ、将来的に自立して活動を行う全国ネットワークの構築を目指し、国内外の取組動向の調査やその経験、知見の全国的な普及・展開等の支援を図ることを目的とした6年間の事業です。地域ブロックについては、地域ブロック会議を年1回以上開催し、地域の特性に合わせた活動に取り組めます。東北ブロック会議の代表幹事は東北大学で、幹事大学は岩手大学と山形大学です。南東北のネットワーク構築にとっては追い風であり、「大学コンソーシアムやまがた」の「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」の活動を核として、南東北地区の連携を図っていきます。



池田 弘乃 先生

学術研究院(人文社会科学部担当)
准教授



社会学者の赤川学が著した『子どもが減って何が悪いのか!』という本があります(ちくま新書、2004年)。そのようなことを表立っているならばかなりの反響を受けることが予想されるでしょう。しかし、「悪くない」という主張は、それを最終的に認容するにせよ棄却するにせよ真摯に吟味すべき含蓄を有しているように思われます。仮に《「悪い」、すなわち「減ることは(社会にとって?)悪い」ので、「出生率回復のための政策を実行すべきである」》という立場をとるにせよ、その種の政策に密かに(あるいはあからさまに)「産む機械である女性の自由に構ってなどいられない」といった見解が混入しないように、「悪くないのではないのか?」という主張から学べることは少なくないように思われます。

現在の日本でこのように「悪くない」といったことを主張すると、「お前は産んだのか? 義務を果たしたのか?」という有形無形の詰問に直面する可能性はそれほど低くはありません(そ

「少子化対策の時代と個人の尊厳」

してその詰問の切っ先は「女性」だけに向くわけではないのです)。産む、産まない、産める、産めない、産めた、産んだ、産まなかった、産めるようになった、産めなくなった……。どのような性を生きるにせよ、これらの分類が人の一生につきまといてきます。この問題は、人の性(性についてのアイデンティティ、性的欲求のあり方)に関わる規範と社会制度(特に法制度)を研究テーマにしている私自身にとっても常に頭を離れない問題です。

例えば次のような文章を公にする国会議員がいる社会であるということはどう考えればよいでしょう。「……子育て支援や子供ができないカップルへの不妊治療に税金を使うというのであれば、少子化対策のために税金を使うという大義名分があります。しかし、LGBTのカップルのために税金を使うことに賛同が得られるものでしょうか。彼ら彼女らは子供を作らない。つまり「生産性」がないのです。そこに税金を投入することが果たしていいのかどうか」(杉田水脈「LGBT」支援の度が過ぎる」、『新潮45』2018年8月号、58-59頁)。

この文章の「しかし」以降も主張の当否以前に基本的な事実認識の段階で粗雑なものですが、「しかし」以前はどうでしょう。子育て支援や不妊治療への助成は「少子化対策のため」という大義名分がなければ賛同が得られない

ものなのではないでしょうか。もしそうなのであれば、それ自体として適切であるはずの子育て支援や不妊治療への助成という政策目標は、結局のところ「女性は産む機械」論へと回収されることにならないでしょうか。

子育て支援にせよ、不妊治療助成にせよ、一つ一つの政策目標を、依存的存在と彼らをケアする存在とが品位(dignity)ある生を送るため、あるいは生殖にまつわる悩みをもつ人が品位ある生を送るため、といったような社会の基本的価値へとつなげていく地道な議論が必要です。その基本的価値の探求の出発点は、日本社会の場合言うまでもなく日本国憲法です。その24条2項には、家族に関する法律は「個人の尊厳(dignity)と両性の本質の平等に立脚して」制定せよと書かれていることの意義を想起したいと思います。



人文社会科学部公開講座

～男女共同参画推進室日誌～

- 8月 8日 企業主導型保育所「つぼみ」竣工式
- 8月31日 男女共同参画推進室ニュースレター(第23号)の発行
- 9月 1日 企業主導型保育所「つぼみ」開所
- 9月20日 「男女共同参画アンケート」のための第2回ワーキンググループ打合せ開催
- 10月 8日 理学部女性研究者裾野拡大セミナー
- 11月15日 「社会に出た後の学び直しの教育(リカレント教育)に関するアンケート」の実施(～11/30)
- 11月20日 小白川キャンパス「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
- 12月 6日 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック打合せ
- 12月 7日 「山形大学男女共同基本計画」に関する年度評価及び計画についての各部局への依頼
- 12月12日 農学部「学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会」の開催
小白川キャンパス「ワーク・ライフ・バランス研修会」の開催
- 12月17日 男女共同参画推進委員会の開催
- 12月26日 2019年度前期「研究支援員制度」利用者の募集開始
- 1月19日 センター試験 学童の一時預かり実施(小白川)・保育所「のびのび」開所
- 1月20日 センター試験 学童の一時預かり実施(小白川)・保育所「のびのび」開所
- 2月 7日 全国ダイバーシティネットワーク組織幹事会・シンポジウム
- 2月28日 ニュースレター(第24号)の発行
- 3月29日 山形大学男女共同参画報告書の発行(予定)

3 機関合同シンポジウム

託児可(申込時) 総講無料 WEB申込可

日 時
平成31年3月8日(金)
14:00～16:30

場 所
山形大学小白川キャンパス
法人本部3階 第1会議室

内 容

基調講演
「東北公益文科大学の取組とネットワークに期待すること」
東北公益文科大学大学院 公益学研究科長
教授 伊藤 真知子 氏

報 告

- ◆ 山形大学の男女共同参画に関する実績報告
- ◆ 「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」
- ◆ 男女共同参画推進状況アンケートの報告
- ◆ 全国ネットワーク申統機関(期)について

※当日スケジュール等の詳細は本事業のホームページにてご確認ください。
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/diversity/>

◆ 申込受付 16:30～17:00
◆ 申し込み(申し込み締切)の日のための情報交換会を開催します。事前申込み不要です。ぜひご参加ください。

問合せ・申込先
山形大学男女共同参画推進室 米沢分室
TEL0238-26-3356 FAX0238-26-3398
y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

共催: 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

シンポジウムのチラシ

編集後記/今年度のシンポジウムは、男女共同参画アンケートの報告を行うため、3月に開催します。そのため、今号ではチラシだけの紹介となりました。アンケート報告書は、「男女共同参画報告書」に掲載しますので、ぜひご覧下さい。10年前と比較すると、ワーク・ライフ・バランスの意識や働く環境が向上しましたが、男女の家事労働時間の差は縮小していないなど、変化や今後の課題が見えます。ご感想・ご意見をお寄せください。(2019年2月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937/4938/4939
E-mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>